

JA いしかり



2017
7月号
Vol.341

特別企画

青果物生産販売の向かうべき方向—前編—

札幌ホクレン青果
高橋守代表取締役社長

JAいしかり
中村武史代表理事組合長

本年6月2日に札幌ホクレン青果株式会社で行った『スペシャル対談』の内容を2ヶ月にわたりご紹介致します。

札幌ホクレン青果株式会社



JAいしかり
中村武史 代表理事組合長



札幌ホクレン青果
高橋守 代表取締役社長

青果物生産販売の向かうべき方向 -前編-

平成28年度の青果物の販売を振り返って

【石狩市農業協同組合 中村武史代表理事組合長（以下 組合長）】

昨年は、全道的に台風の影響で野菜価格が高騰し、青果物の取扱では16億円近い販売金額で、近年にない大変大きな取扱金額となり、台風被害にあった地方の皆様には大変申し訳ないですが当JAの生産者には大変良い年だったと思います。

中でもプロッコリーについては販売金額3億5千万円となり、一昨年に引き続き3億円の大台を超えました。また、人参も久々に2億円を突破し、計画が1億円ちよつとでしたので倍近い販売高になりました。その他は馬鈴薯などが年末に近付くにしたがって相場が上がりました。

振り返れば、平成26年は青果物市況が低迷し、米も価格が今一つで非常に苦しい年となり、こんな年が2・3年続いたら生産農家も離農が進んでしまうと本当に心配していたのですが、幸いにも平成27年は青果物市況が好転し、昨年はさらに良い年となりました。



【札幌ホクレン青果株式会社 高橋守代表取締役社長（以下 社長）】

昨年は道内だけではなく道外も8・9月と気候が悪く秋野菜が不作となり、道産野菜も無くなるのが早く10・11月は経験したことのない市況となりました。全体的に台風被害は勿論あるのですが、それよりも農地を含めて作付面積が少し減っている事も一因のようで、北海道もそうですし日本全体の青果物産地の作付がじわじわ減っているようです。

そのため、産地の出荷数量の少しの増減が市況に影響しやすくなっています。供給過剰でどうしようもない場面は全体的に少なくなっている感じがあり、これからは青果物の供給過多というよりも、需要と供給が引き締まるという見方が強いかもしれません。

【組合長】

需給が引き締まってきたということとは、生産者にとってもJAにとっても大変追い風ですね。

【社長】

そうなんです、最近では生産力の個人差が大きくなってきていると感じます。圃場条件や生産基盤整備の内容の違いに加え、生産者の皆さんの技術力の差が収穫に大きな影響を与え、結果、生産量において大きな個人差となって出てきているとの話を各産地から聞きます。更に労働力の確保がどのように出来るかも、個人差を拡大している大きな要因だと思います。

地域農業の現状 特に青果物の現状について

【組合長】

生産者もJAも、生産現場は労働力不足で大変困っています。当JAで作付している主な青果物は、土地利用型作物も勿論あるのですが、それですと大産地になわないので、大産地が真似の出来ない労働集約型の作物、プロッコリー、サヤエンドウ、ミニトマトなどいわゆる手作業で収穫する作業体系の品目に取り組みざるを得ないと思っています。

幸い札幌市という大都市に隣接しており、環境に恵まれていますので何とか労働力を確保しながら進めていますし、これからの方向でやっていかざるを得ないと思います。

そのためには、やはり労働力の確保が課題で、確保して初めて作付面積も維持出来ます。外国人研修生を

雇っている生産者もいますので、今後それらも視野に入れて対応していかなければならないと思っております。

【社長】

産地の皆様にもっとわかりやすく丁寧に情報をお伝えしなくてはならないと思っています。

以前の市場は品物を集荷して販売する一方通行的な仕事をしていましたが、今はそれでは荷物は集まらず、産地に向いてしつかりと話をし、理解してもらって出荷して頂くことを、もっと濃密に行わないとダメだと思います。そこをしつかりやる市場が評価され生き残っていくと思います。



【組合長】

JA側は、やはり需要に応じた生産をすることが今後益々求められてくると思います。

昔は作った野菜を集荷して市場に送れば買ってくれる感覚がありましたが、実際には消費者が好むもの、必要なものを作らないと結局売れないですし、お金にならない。需要をしつかり把握しながら生産していかなければ経営が成り立ちません。市場の力をお借りして、JAとしてきちんと情報交換をさせて頂き、しつかり生産者に伝えていきたいと思っております。

【社長】

今の市場流通は、営農段階から産地の皆様と情報交換をさせていただき、計画的な出荷による安定販売を実現するような仕事を進めています。日々の情報収集もお互い濃密に行われていますが、その中において新たな取り組みを企画すると時間と労働力もかかりますが、そのことをやらないと、お互いにパイプは太くならないし、信頼関係が深まりません。

また、会社としても事業を拡大していくためには、新たな企画・挑戦をしなければ事業は縮小してしまいます。産地の皆様に向けて新たな取り組みをどんどん提案していきたいと思っております。

【組合長】

生産者は以前と違い今は安定収入を望んでいますので、契約栽培にも取り組んでいきたいと思っております。去年は良かったけれど今年はダメでは後継者も安心して継いでくれないので、契約栽培を取り入れながら安定収入を確保した上で、色々な品目にチャレンジしていきたいと思っています。当JAでも最近馬鈴薯や人参など加工業務用作物にも取り組んでいますので、今後も色々な情報を教えて頂きたいと思っておりますし、加工業者とのマッチングについても提案を期待しております。

後編に続く

札幌ホクレン青果株式会社

〒060-0012

札幌市中央区北12条西20丁目2-2

電話番号 011-643-3211

資本金 2億8千万円

設立 昭和51年1月29日

(営業開始 昭和51年5月18日)

事業内容 青果物の卸売販売

1 青年部『さつまいも試験栽培』スタート!!

5月30日より、青年部員の圃場2カ所でJAいしかり青年部の振興作物事業『さつまいも試験栽培』がスタートし、マルチ張りや苗の移植が行われました。

これは、平成23年度より青年部が行っている事業で、新たに地域ブランドを確立することや石狩市の名をもっと広く知ってもらうことを目的としており、今年で7年目となります。

昨年度は、さつまいも「黄金千貫」を使用した焼酎『芋男氣』を商品化し、地物市場とれのさとで発売しました。大変好評で現在も人気商品となっていますが、今年度は今後の作付拡大の可能性を探るべく、加工用品種栽培にも取り組んでいます。

今回作付けを行った山内克彦青年部長の圃場では、秋に販売を予定している「鳴門金時」と「シルクスイート」の2品種を約3a作付けし、熊倉聡副部長の圃場では芋羊羹などに使われる加工用のさつまいも「べにまさり」を約10a作付けしました。

前回の対面販売時には「甘みがのついで美味しい」とお客様から高評価を頂いており、今年度も石狩産さつまいものPRとして地物市場とれのさとでの販売を計画しています。

石狩は、さつまいも栽培に向いていると言われている水はけの良い砂地があるため、品種により出来栄がどうなるのか今から収穫の秋が楽しみです。



2 地物市場とれのさとで苗物市を開催

5月12日～14日、地物市場とれのさとで苗物市を開催しました。

この期間は、とれのさと特設会場で野菜と花、各々約30種類の苗を販売しており、待ちかねていた方々で毎年大変賑わっているイベントです。



『「この苗じゃないとダメなの。」「毎年、苗物市を待っている。』と市内外から足を運んで頂いています。

最終日はあいにくの天気でしたが、たくさんのお客さまにお越し頂き、通常店舗の来客とは別に苗物市のみに来客数は三日間合計で約1,500人となりました。

3 直売現地研修会開催

5月29日、直売所出荷者協議会現地研修会を開催し、27名の会員が参加しました。

始めに石狩市農業総合支援センター試験圃場で今年の試験状況報告と、営農課より冬期栽培に向けたハウス設置支援事業の説明を行いました。

その後、会員の圃場に場所を移し、花畔地区の尾田久男さんと遊佐宏文さんに各々の取り組みについて説明頂きました。尾田さんの圃場では、これから旬を迎えるメロンが作付けされており、生産者も少ないことから目を引いていました。遊佐さんの圃場では冬期営業期間中の出荷実績の報告があり、参加者は冬期出荷の可能性を大いに感じていました。

当日参加者に配布された試験中のサンプル苗が、これから会員の畑で大きく育ち、収穫後に地物市場とれのさとして商品としてお客様に届くことを期待しています。



4 直売の視察研修に行ってきました！

6月12日、直売所出荷者協議会が空知方面への視察研修を行い、34名の会員が参加しました。

初めに訪問したのは直売向け野菜種子などを幅広く扱うベジョー・ジャパン株式会社の北海道大学試験圃場です。こちらでは試験栽培中のアスパラや直売向け新品種の紹介、作付のアドバイスを頂きました。

次に訪れたのは長沼町ホクレン農業総合研究所農場です。こちらでは数多くの品種のアスパラを始め農産物が試験栽培されており、来期作付に向けての参考にするため、参加者からの質問は途切れることがありませんでした。

その後、アウトレットパーク三井北広島内の農産物直売も取り扱っているロコファームへ立ち寄った後、沢山のお土産を両手に帰路につきました。



5

グリーンサポーター初心者向け農作業講習会開催



5月19日、石狩市農業総合支援センター試験圃場にて、グリーンサポーター初心者講習会を行いました。

これは援農隊マッチング支援事業の一環としてグリーンサポーター協議会が行ったもので協議会発足後今回が初めての事業となりました。会場には34名のサポーターが集まり、座学講習や圃場内で定植作業などを行いました。

座学講習の中では、始めに営農課西塔職員から取決め事項の確認や雇用契約、労災、農作業を行う上での装備、服装などについての説明を行いました。雇用契約書は今年度より農業者とサポーターの間で交わすことになっておりますので、組合員の皆様も何卒よろしくお願い致します。

また、農作業中の危険性についての説明を行い、農機具を使用した作業は農作業の中でも特に危険であり一歩間違えれば大きなケガや事故に繋がる原因ともなるため、改めて注意を喚起しました。

その後、熊倉嘱託職員より農機具や農作業における留意点の説明を行いました。農業機械はサポーターの方々にとっては普段触れることのない物であるためか非常に興味深く聴講していました。

圃場に移ってからは、品種や農具の実技指導やマルチの引き方、そして落花生・スイートコーンやカリフラワーなどの植え付け作業を行い、参加者は生き生きとした表情で真剣に取り組んでいました。

参加したサポーターからは非常に好評で、終了後にも熱心に質問する姿が多く見られました。「間違っていて覚えていたことが沢山あった。」「作業などで今まで疑問に思っていたことが解消された。」「熊倉嘱託職員の話がおもしろかった。2回目の開催も是非お願いしたい」という意見も聞かれ、大変有意義な講習会となりました。これから農作業は収穫作業などの繁忙期に入りますので、サポーターの活躍が一層期待される場所です。



6

ミニトマト
現地検討会開催

5月23日、小池裕明さん圃場と佐々木敬仁さん圃場でミニトマト現地検討会を開催しました。

石狩農業改良普及センター専門普及指導員の斉藤孝行氏に、苗定植後の管理状況の確認と、今後のハウス温度管理や追肥・摘芽実施のタイミングなどを説明して頂きました。

また、8月の収穫ピークを回避する対策として、6月下旬頃に主枝を摘芯し、わき芽を伸ばし、更に8月収穫となりそうな花房を摘房する技術などを指導して頂きました。

今年度、新規就農者の佐々木敬仁氏が新たに会員に加わり高岡施設園芸組合は総勢12名となりました。生産量・販売金額とも少しずつではありますが着実に伸ばしており、今後も更なる技術の習得と経営安定を目指し日々努力を重ねています。



7

石狩フェアで
石狩産野菜をPR!!

5月17日

5月17日、18日の二日間、イトヨーカドー屯田店で石狩フェアを実施しました。

食品ブース入り口の一番お客さまの目に付

く場所に石狩産野菜コーナーをつくって頂き、野菜の対面販売をしました。

今回は旬のグリーンアスパラをはじめ、なめこ、うど、ハマボウフウ、小松菜、ほうれん草、ゴボウ、パクチーを販売しました。露地物のグリーンアスパラが始めということもあり、新鮮で安心安全な野菜を求め、たくさんのお客様で賑わいました。

10時の開店と同時に売れ始め、お昼前にはほぼ完売状態となり大変好評のうちに終了しました。

今後も同様にプロッコリーや南瓜などを販売する予定となっております、更に石狩産野菜のPRが出来るように取り組んでいきたいと考えています。



8

万が一に備え
火災避難訓練実施

5月2日本店、5月23日花畔支店にて、それぞれ火災避難訓練を実施しました。当日は、石狩消防署員の方々に立ち会って頂き、自動火災報知器のベルを鳴らした上で避難誘導や119番通報も正しい、本番さながらに緊迫感のある中での訓練となりました。

避難後は石狩消防署の方から講評を頂き、『全員がすばやく避難出来ていて、毎年の訓練の成果が出ているのではないかと褒めの言葉を頂きました。』

その後、訓練用消火器のピンを實際に抜き、火に見立てた目標物を消火する訓練も行いました。放水は弧を描くようにすると良いなど消火のコツも教えて頂きました。

災害は忘れた頃にやってくるという耳にしますが、いざというときに慌てないためにも日頃からの心構えと備えは大切だと改めて感じ、参加した職員は各々に気を引き締めていました。



9

新人職員農業現地研修実施

5月29日～31日にかけて、小池裕明理事・吉田裕行理事の圃場及びハウスで新人職員農業現地研修を行いました。

これは4月に続き、農業への理解を深めることを目的とした新人育成の一環です。今回は、新人職員の男性4名が各々1～2日ずつ体験参加しました。

青果課梶職員は「2日間のみでしたが、ハウス内の暑さと一つ一つの手作業の大変さがわかり、毎年この作業をしている組合員さんはスゴイなあと思いました。」と、資材課千田職員は「農作業が分からない状況で参加させて頂き、体力には自信がありましたが大変でした。良い経験をさせて頂きました。」と今後業務に関わる上でも非常に貴重な経験となったようです。



今月の表紙紹介

～撮影オフショット～



▲ 出産後まだまだ大変な時期に、やゆみさんはとびきりの笑顔で☆

今月の表紙は直売所出荷者協議会会長の大村喜紀さんご夫妻と長男の喜輝さんご一家です。

大村さんは花卉栽培を始めて50年。年間通じて地物市場とれのさとも出荷しています。



▲ 玲花(れいか)ちゃんは撮影時、あと2日で二ヶ月でした♡



▲ 聖子さんと孫の遙喜(はるき)くん撮影時は2歳7ヶ月でした♡



▲ 喜紀(よしのり)さんと喜輝(よしてる)さん親子ツーショットで♪

熊出没注意!!

目撃情報が多発しています!!



◆目撃情報◆

①平成29年5月24日(水) 午前6時50分頃

石狩市厚田区聚富付近望が丘線新生橋付近で熊の目撃。

②平成29年5月25日(木) 午前7時頃

石狩市八幡町シップ(小池裕明氏宅裏下のほ場付近) 2カ所で熊の足跡を目撃。

③平成29年6月6日(火) 午後7時頃

マクンベツ湿原駐車場(国道231号に近い1カ所目の駐車場) 付近のやぶで熊の目撃。
近くを車で通りかかった男性が目撃

④平成29年6月7日(水) 午後2時頃

石狩市北生振8線地先の納屋(中村武史氏宅横の温床場付近) で熊の目撃。

⑤平成29年6月8日(木) 午後8時頃

※6月6日(火) から目撃されている熊と同一と思われるとのこと。

石狩市生振の道路上(茨戸霊園へ向かう途中)、車で通りかかった男性が熊を目撃。

⑥平成29年6月12日(月) 午後1時頃

石狩市八幡町高岡入り口付近 熊の足跡を目撃。

キヌサヤほ場でネットを破る被害が発生、前日午後6時頃から朝方までに通った可能性があります。

⑦平成29年6月13日(火) 午前5時頃

石狩市美登位の道路上(12線と北5号の交差点付近) で熊の目撃。

発見者が警察に通報。当別町獅子内方面へ逃走。

同日午前8時30分頃、スウェーデンヒルズゴルフ倶楽部で同一個体と思われる熊を目撃。



【近寄らせない事が第一!十分注意して下さい】

- ・熊に人間の存在を教えること。鈴やラジオなど音の出る機器が有効です。
- ・生ゴミなどを外に出さないようにしましょう。
味を覚えてしまうとそれを目当てで繰り返し来てしまいます。
- ・納屋や車庫などの戸締まりをしましょう。

【もしも熊に遭遇したら】

- ・急に声をあげたり、急な動きをすると熊を刺激するので危険です。
- ・熊と距離が近い場合は視線をそらさず、動きを見ながらゆっくり後退して下さい。
- ・子熊を見つけても必ず近くに母熊がいるので絶対に近づいてはいけません。



◀6月13日に目撃された熊の写真です。
北5号の防風林を当別町獅子内方面へ逃走。現場から50m付近には山菜採りの男性2名がいましたが、幸いにも被害はありませんでした。目撃者の話と写真を見る限りでは、体長2m近くあるものと思われます。



JAグループ通信

JA北海道中央会

JAグループ北海道は、平成29年度の農業政策提案事項の検討にあたり、基本農政並びに各作物別対策本部委員会を開催しました。

基本農政対策本部委員会では、国際貿易交渉に係る動向を共有するとともに、世界の諸情勢を見極めながら国際貿易交渉等への対応について機動的な運動展開を図ることを確認しました。また、持続可能な北海道農業の確立に向けて、担い手・人材力強化や産地体質強化などの作物共通対策の組織討議原案を協議、決定しました。

今後、各地区・JA段階での組織討議を行いながら、現場の意見を踏まえた要請活動につなげて参ります。

JAグループの連合会中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

ホクレン

社会・地域貢献活動「シーズプロジェクト」の一環として、児童養護施設の子どもたちに北海道日本ハムファイターズの試合を通じて元気と勇気を感じ、地元・北海道への愛着を持ってもらおうと、児童養護施設9施設に札幌ドームでの観戦チケット160枚と限定ユニフォームをプレゼントしました。この取組みは、2013年から継続して実施しており、今年で5年目になります。



JA北海道信連

JAバンク北海道は、5月に開催された「日刊スポーツ豊平川マラソン」へ協賛しました。当日は、ランナーのゼッケンに「JAバンク北海道」のロゴを出したほか、ちょリスグッズの抽選会（400名以上の方が参加）や、ちょリスと一緒に撮った写真をSNSに投稿した方へグッズ等をプレゼントする企画を行いました。

今後もイベントへの参加や協賛を通じて、地域の皆様を応援してまいります。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様 の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JA共済連北海道

地域貢献活動の一環として生徒向けの交通事故対策活動に取り組んでいます。スタントマンが交通事故を再現して危険性を疑似体験（スクエアード・ストレイト技法）させる交通安全教室を開催し、自転車走行のルールやマナーを学んでいただいています。今年度は道内8つの高等学校で開催を予定し、活動を通して交通事故が減り、組合員・地域の皆様 が安心して暮らせる地域づくりに貢献していきます。



理事会だより

第4回定例理事会 ～平成29年5月19日(金)～

◆ 報告事項 ◆

- ①農産物販売状況について
- ②余裕金運用状況報告について
- ③組合員加入・脱退について
- ④夏期手当の支給について
- ⑤クールビズの実施について
- ⑥平成30年度正職員の採用について
- ⑦農業委員会総会について
- ⑧その他

◆ 審議事項 ◆

- ①理事者に対する貸付金申込査定について
- ②平成29年度 米穀共同計算運営事項(案)について
- ③組織討議について

◆ 協議事項 ◆

- ①人事労務基本方針(案)について
- ②役員視察研修について

6月のあゆみ

7～9日 全国監査機構・一般監査

9日 青年部全体会議

12日 直売所出荷者協議会視察研修

12～14日 平成29年産米穀出荷契約受付

13日 第2回営農経済委員会

経営会議

14日 企画会議

15日 第43回石狩地区

J A青年部ソフトボール大会

15～16日 女性部視察研修

16日 定例理事会

20～21日 青年部視察研修

21日 ミニトマト先進地視察研修

23日 米麦振興会視察研修

人事異動のお知らせ

・・・6月1日付人事異動・・・
総務部総務課総務係 寺内 秀
(経済部燃料自動車課燃料係)

おくやみ

生振第8
津田 正明さん
享年53歳
平成29年5月23日逝去

高岡第4
竹永 チヨさん
享年97歳
平成29年6月7日逝去

謹んでお悔やみ申し上げます。

お詫び

2017年4・5月合併号の
記載に誤りがありました。
訂正してお詫び致します。

資産運用部会新役員
(誤)野本 明 さん
(正)野本 清 さん

とれたて！
クッキング

女性部 川崎寿子さん(北生振地区)が作る
オリジナルキーマカレーレシピ♪



キーマカレー with パクチー



材 料

(約4人分)

- | | | | | | |
|--------------------------------|-------|------|---------|-------|-------|
| ●豚ひき肉 | | 300g | ●サラダ油 | | 適量 |
| ●玉ねぎ | | 中2個 | ●塩こしょう | | 適量 |
| ●トマト | | 中1個 | ●コンソメ顆粒 | | 適量 |
| (今回は冷凍のアイコ使用) | | | ●水 | | 少々 |
| ●パクチー | | 適量 | ●カレールー | | 80g |
| ※自家野菜が出回るとピーマン
やズッキーニを使います。 | | | ●はちみつ | | お好みで♪ |

作り方

- ①野菜はみじん切りにしておきます。
- ②鍋にサラダ油を入れて熱し、玉ネギのみじん切り、豚ひき肉を塩こしょうして炒めます。
- ③ひき肉に火が通ったらトマトのみじん切りを加え炒めます。
- ④水とコンソメ顆粒を加えます。
- ⑤カレールーを細かくして加えます。
- ⑥水分がある程度なくなるまで(お好みの固さ)混ぜます。
- ⑦水分が少なくなったところにお好みでハチミツを加えて出来上がり♪
- ⑧お皿にキーマカレーを盛り、パクチーの葉を散らします。
- ⑨付け合わせにお好みの野菜を添えて完成です♪